

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 3 月 3 1 日

事業所名 高山市立いきいき広場

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	・利用定員に対して十分な広さがある。	
	② 職員の配置数は適切である	4	0	・二人体制で丁寧な関わりができるようにしている。	・代替の職員の確保が難しい。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	・生活環境は構造化され整頓されている。 ・個の特性に合わせた環境設定を行っている。 ・安全に配慮して集中できる環境を作っている。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	・都度、消毒・換気を行い、清潔に努めている。 ・部屋の大きさに見合った冷暖房機械が設置されていることで適切な温度調節ができています。	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	・日々の療育後に評価や反省をして、目標に向けて次の取り組みを検討している。	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	・毎年行っている。	・結果を踏まえて、業務改善につなげていく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	・自己評価・保護者向け評価を実施し、集計したものを市のホームページに掲載している。	・ホームページに掲載することを保護者におたよりなどで周知する。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4		・第三者による外部評価は実施していない。 ・第三者による外部評価の実施について検討を進めていく。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	・市や県などが実施する研修に積極的に参加し資質向上に努めている。	・日々の業務との調整が難しいが人員配置を工夫するなどして対応している。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	・定期的に面談にてアセスメントを行い、保護者ニーズや課題に沿った支援計画を作成している。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	4		・現在ツールは使用していない。今後検討していく。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	・アセスメントを丁寧に行うことで本児の困り感やまた強みとなる部分を分析し、ニーズに合わせて、運動・言葉・社会性の分野にわけて支援内容を考えている。	・保護者の方にも分かりやすい支援計画となるように、書き方や説明に配慮していく。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	・支援計画を活動日誌に記載し、目標を心に留めておくことができるようにしている。 ・子どもの状況と計画を照らし合わせて支援するようにしている。	
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	・職員と相談してプログラムなどを立案している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	・子どもの意欲を引きだせるよう、内容や環境設定を工夫している。 ・一人ひとりの子どもに合わせた活動プログラム、支援方法を試行錯誤している。	・話し合う時間の確保をしていく。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4	0	・個々の状況を分析し、個別活動・集団活動の適性を見極めて支援計画を作成している。	・引き続き子どもの状況に合わせて必要な支援を見極めていく。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	・療育前には支援の内容や、役割分担を確認している。	・打ち合わせなどを十分行える時間の確保に努める。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	・療育後には職員間で振り返りを行いながら、日誌等の記録をしている。話し合うことでお互いに発見があったり、見立てが深まっている。	
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	・療育日誌に記録し、次の支援へつなげるようにしている。	・支援の見直しがしやすいようにポイントを押さえた書き方をするように努めていく。記録の際の重点の置き方に共通認識を図っていく。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	・児童発達責任者と、各事業所の担当者で必要性を判断している。 ・個別記録、保護者への活動記録を読み返し、モニタリングに反映している。	
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	・児童発達責任者が参画している。	・必要な場合は各事業所担当者も同席する。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	・子ども発達支援センターや保健師、各関係機関と連携している。 ・電話や見学等で情報共有を図っている。	・連携が密になるような体制作りが必要。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				今年度は対象になる子どもがいなかった。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				今年度は対象になる子どもがいなかった。
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	・園訪問、引継ぎシートにて情報共有を行っている。 ・引継ぎシートについては保護者と共有しながら作成している。就園先に保護者から提出してもらい支援の引継ぎを図っている。	
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	・電話や引継ぎ会にて情報共有を行っている。 ・引継ぎシートを保護者と一緒に共有しながら作成している。作成したシートをサポートブックに挟んでもらい、就学先に保護者から提出してもらい支援を引き継ぐことを図っている。	
	㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	・子ども発達支援センターが実施する療育研修に参加し、他の事業所との連携に努めている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	㉔ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある				・今年度は新型コロナを含めた感染症予防のため交流は中止となった。 ・状況を見ながらではあるが、併設園のお子さんとの交流は再開していく。
	㉕ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	0	・児童発達支援管理責任者が参加。	
	㉖ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	・活動内容を保護者に伝え、児の共通理解を図っている。必要に応じて面談も行っている。	・療育参加中や活動記録に保護者からの質問や相談があれば、子や保護者に寄り添い丁寧に応じていくように努めている。
	㉗ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	0	・子ども発達支援センター主催のペアレントトレーニングに参加した。	・今後も子ども発達支援センターと連携して、ペアレントトレーニングが実施できるように検討していく。
保護者への説明責任等	㉘ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	・契約時、児童発達支援管理責任者より説明している。 ・書類に記載し、理解につなげている。	
	㉙ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	・保護者に分かりやすく説明し、個々に応じた課題の取り組みを具体的に知らせている。 ・同意が得られた支援計画についてはサポートブックに綴るように依頼し、保護者の認識を高めている。	
	㉚ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	・必要に応じその都度、電話相談や面談を行うようにしている。	・定期的な保護者支援を図るとともに、突発的な保護者の要望にも迅速に伝えていく。
	㉛ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				・今年度は新型コロナ感染症予防のため交流は中止となった。 ・状況を見ながらではあるが、保護者同士の関わりの方が持てるように計画していく。
	㉜ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	・その都度相談に応じている。 ・迅速に対応し、記録をとっている。	
	㉝ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	・個々に、メールや口頭で保護者の方に詳しく伝えるようにしている。	・個々に対応している為、定期的な会報等はないが、お知らせしなければならない情報は丁寧に発信している。
	㉞ 個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	・個人情報に関わる書類や、パソコンは鍵のかかる棚に片づける。 ・個人情報は他言しない。	・個人情報管理の強化体制をさらに図る。
	㉟ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	・保護者の了承のもと、通園している保育園と連携し、丁寧な対応ができるように心がけている。	・定期的に行う以外にも、個々の状況に応じて連絡を取り合い、対応していく。
	㊱ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				・今年度は新型コロナ感染症予防のため、卒園児対象のオープンスペースは中止となった。 ・状況を見ながらではあるが、検討していく。
	㊲ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	・マニュアルを作成し、職員間で周知している。	・それぞれのマニュアルについて定期的に職員間で確認していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	・併設の園と合同で避難訓練を実施している。 ・毎回避難訓練記録に記録し、反省事項について改善するようにしている。	
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	・契約時に聞き取りを実施し、職員に周知している。	
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	・契約時に聞き取りを実施している。 ・通所事業所のため、食事をとる場面はない。	・食事をとることはないが、素材を遊びで使う時に配慮できるように契約時の聞き取りはもちろん、児の状態を把握し職員間で周知していく。
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	・職員間で共有し、事例があった際すぐに対応できるようにしている。 また、事業所の教室配置図に記入し、注意喚起を行っている。	
	④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0		・虐待チェックを継続するとともに、研修内容の充実を図る。
	④⑦ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				・これまでに身体拘束を行う事例がないが、身体拘束については、契約の時に説明をし了解を得ている。 ・やむを得ず行う場合は、直ちに話し合いを行い、判断基準及び対応について組織として決定していく。